

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 八尾キッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師や理学療法士、嘱託医などの専門的視点からも個々の状況に寄り添い、きめ細やかな課題分析に基づいた分かりやすい個別支援計画を作成することができる。	児発管以外の多職種の職員も書類作成に関わる会議に毎回参加し、意見交換をした上で個別支援計画を完成させている。	管理職だけでなく、個々の現場スタッフとも話し合いの機会を増やしていくこと。(既に今年度から全体ミーティングの頻度を上げています。)
2	公園遊びやショッピングモールへの外出活動や買い物体験を通じて、社会経験や地域交流ができる機会が多い。	土曜日や祝日営業日、長期休み等に遠足や買い物体験等のイベントを実施し、地域生活のための社会経験になるような機会を設けている。	徒歩で行ける距離の地域のスーパーやコンビニなど、より日常生活に近い店舗等への外出の機会も設けるようにする。
3	日々の自由時間に加えて、音楽療法や遠足などの集団活動を複合的に取り入れることによって、個別療育と集団療育の両面で支援できる。	音楽療法士の先生による音楽療法を2か月に1回定期的に開催し、土曜日や祝日営業日、長期休み等にはスポーツセンターや大型施設への遠足を実施している。	日常的にできる全体活動にも専門性を取り入れ、重症心身障害児の利用者様がより効果的に療育を受けられるための知識を勉強し、実践していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会など、保護者同士のコミュニケーションが取りやすくなる機会が少ない。	事業所を通した1対1の関わりを重視しているため。	今後も検討の機会を設ける。
2	地域住民の方を招待するイベントなど、現状よりもさらに踏み込んだ地域交流は機会が少ない。	近い距離で初対面の方と過ごす緊張してしまう方もおられ、一定の配慮をしているため。	今後も検討の機会を設ける。
3	ペアレントトレーニングや家族参加型のイベントなどの機会が少ない。	事業所を通した1対1の関わりを重視しているため。	今後も検討の機会を設ける。